

明けましておめでとうございます

令和2年(2020)は十二支で最初の子年にあたります。暦や方角を示す十二支は古代中国に成立し、十二種類の動物のイメージと結びつきながら、中国大陸だけでなく朝鮮半島や日本列島まで広まりました。

その中でも鼠は、人間の穀物を食べてしまう困りもののイメージがありますが、和銅5年(712)に編纂された『古事記』には大国主神を救う知恵者の動物として登場します。江戸時代には、インド由来の神で、七福神に数えられる大黒天の使い、あるいは福をもたらす動物とみなされました。また、鼠はたくさんの子どもを産むことから、子孫繁栄の象徴とされました。

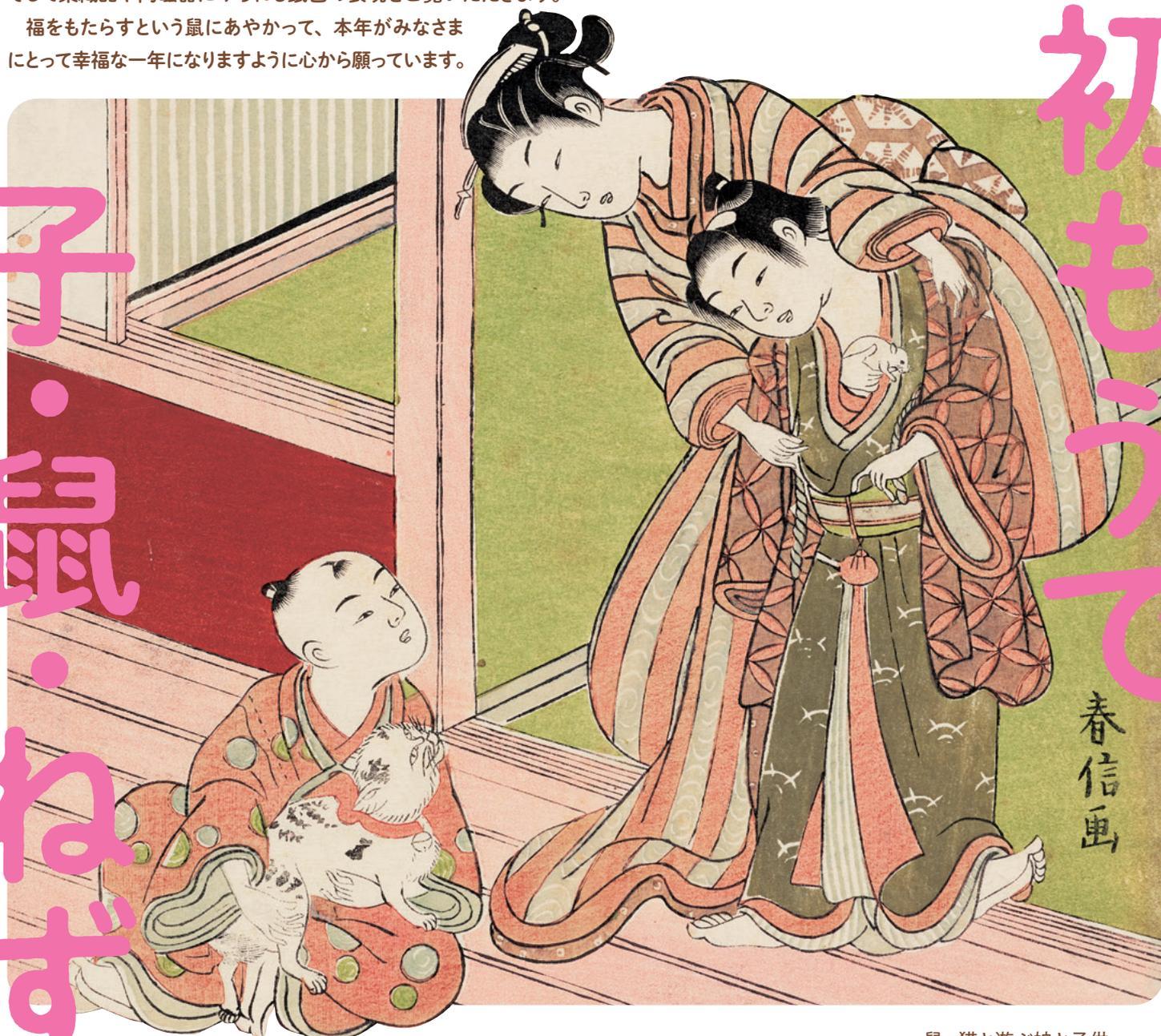
今年の「博物館に初もうで」では、十二支や大黒天の使いとしての鼠の造形をご紹介します。あわせて古くから伝わる鼠の物語、そして染織品や陶磁器にみられる鼠色の表現をご覧ください。

福をもたらすという鼠にあやかって、本年がみなさまにとって幸福な一年になりますように心から願っています。

The Chinese Zodiac is also used in Japan, with 2020 being the Year of the Mouse. Today many people see mice as pests, but a closer look at Japan's arts and stories reveals that these small creatures played some very big roles.

In an ancient myth, for example, a wise mouse saved the god Ōkuninushi. Later stories tell how mice are the servants of Daikokuten, one of the Seven Gods of Good Fortune. Because mice reproduce very quickly, they were also symbols of families blessed with many children.

All of these positive associations made mice a popular subject for art. This thematic exhibition presents a selection of artworks from the Museum collection that reveal the many faces of mice.



鼠、猫と遊ぶ娘と子供  
Children Playing with a Cat and Mouse  
鈴木春信筆 江戸時代・18世紀

## Thematic Exhibition The Many Faces of Mice

令和2年(2020)1月2日(木)～1月26日(日)

東京国立博物館 本館特別1・2室

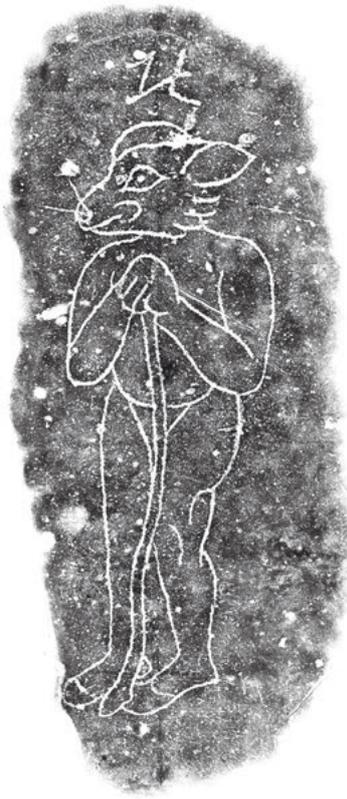
January 2 - 26, 2020

Room T1 and T2, Honkan (Japanese Gallery), Tokyo National Museum

子・鼠・ねずみ

## 十二支の鼠

十二支は暦法用語で、子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥をいい、古代中国で成立しました。十二進法で時を表わし、さらには方角にも用いられてきました。やがて「子」に鼠をあてるように、動物で十二支を示すようになります。隋時代(581～618)以降には、動物の頭と人間の身体をもつ獣頭人身像があらわれ、日本列島でも奈良のキトラ古墳や隼人石に見ることができます。仏教が浸透すると、人びとの守護のために薬師如来が違わず神々として、十二支と結びつけられた十二神将が登場しました。

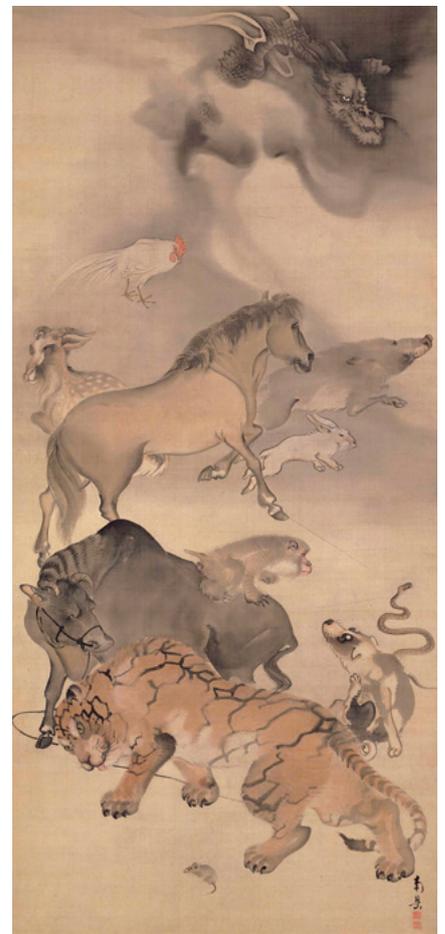


聖武天皇の皇太子墓を守った十二支像

隼人石像碑拓本

The Sign of the Rat, from a Protective Stele at a Tomb

江戸時代・19世紀(原碑：奈良時代・8世紀)



十二支の動物が勢ぞろい

十二支図

The Twelve Zodiac Animals

渡辺南岳筆 江戸時代・18世紀

## 大黒天と鼠

およそ1300年前に編纂された『古事記』には、出雲大社の祭神でもある大国主神が窮地のところ、知恵者の鼠に救われたという記述があります。インドのマハーカーラという神で、七福神にも数えられる大黒天(大黒様)と、この大国主神が同一視され、のちに鼠も大黒天の使いとみなされるようになりました。こうして鼠は福をもたらす動物として人びとに愛され、さまざまな美術工芸品に登場します。大黒天は米俵の上に立ち、手には打出小槌を持つので、米俵や小槌と鼠がセットになって表現されることもありました。



五穀豊穡、商売繁盛の神として親しまれた大黒天

大黒天立像

The Deity Daikokuten

江戸時代・19世紀 倉澤政雄氏寄贈



「だいこく(大黒)ねずみ」から「だいこんくう(大根食う)ねずみ」へ

染付大根鼠図大皿

Large Dish with a Mouse and Radish

伊万里 江戸時代・19世紀 平野耕輔氏寄贈



### 萩や流水の模様が美しい、赤子のための着物

ひとつ身振袖 鼠色縮緬地萩流水鳥帽子鞍模様  
 Robe for a Newborn with Bush Clovers,  
 Flowing Water, an Eboshi Cap, and Saddle  
 江戸時代・19世紀

## さまざまな鼠色

江戸時代には、灰色を基調とした様々な色合いの「鼠色」の着物が登場し、大流行しました。その背景には、華やかな衣服を細かく規制しようとした幕府の儉約令があったと考えられています。そこで、人びとは表向きには禁制に背かないように、地味な茶色や鼠色の着物をまといました。しかし、実際には、微妙に色調の異なる茶や灰色が考案され、「四十八茶百鼠」と呼ばれるほど、多くのヴァリエーションが生み出されました。鼠色の地色に模様を施したデザインの着物は、粋なお洒落として好まれました。



### 鼠色地に 白い文様の「鼠志野」

重要文化財 鼠志野鶴文鉢  
 Important Cultural Property  
 Bowl with a Wagtail  
 美濃 安土桃山~江戸時代・16~17世紀

## 鼠の名前と分類



### 西洋の自然科学を本格的に導入した 19世紀のスケッチ

動物図帖込帳  
 Album of Animals  
 田中房種編 明治4~12年(1871~79) 田中幸徳氏寄贈

「ネズミ」という言葉の語源は、じつははっきりとはわかっていません。「根」(隠れたところ)に「棲む」ことを語源とする説や、人間の食料を「盗み」食べてしまう習性からきているという説もあります。また、暗闇の中でも行動できるため、「嫁(夜目)が君」という異名でも呼ばれました。

博物学が隆盛した江戸時代には、鼠の種類を区別し、その姿や生態を記録するようになりました。当時の分類は科学的な視点を欠き、現代のものとは一致しませんが、一方、日本では早くからハツカネズミの突然変異や交配の方法などが研究されました。



### 長生きした鼠は幸運を運ぶ白鼠になる という迷信を検証

博物館獣譜 第2帖  
 Volume 2 of The Museum's Animal Albums  
 博物館編、服部雪齋、渋谷長伯ほか画 明治時代・19世紀



## かわいい鼠

ねずみ算という言葉があるように、鼠は繁殖力の強い動物です。子どもをたくさん産むことから、古来中国をはじめ東アジアの諸地域で子宝や繁栄、幸福の象徴として人びとに愛されました。日本では大黒天の使いにもなった鼠は、とくに江戸時代以降、さまざまな工芸品のモチーフとして親しまれました。

水滴や根付に表わされた鼠たちは、リアルであるとともにかわいらしくもあり、その小さな体には作者のこだわりと技術が凝縮されています。



### 一本一本、精緻に表現された鼠の毛に注目

ねずみ まき えいん ろう  
鼠蒔絵印籠  
Case (Inro) with Mice  
朱漆銘「猛見政誠」  
明治時代・19世紀  
クインシー・A. ショー氏寄贈



### 小さな鼠の器に水を入れ、硯で墨をする

ねずみ すい てき  
鼠水滴  
Water Dropper in the Shape of a Mouse  
明治時代・19~20世紀  
渡邊豊太郎氏・渡邊誠之氏寄贈

## 鼠と猫

猫は鼠にだまされたために十二支に入りそこねた——このような民話が日本各地に伝わっているように、鼠と猫の緊張感あふれるライバル関係は古今東西の物語に登場します。そこで本特集では、鼠の天敵とされる猫にも光をあててみました。鼠駆除のために猫を借りてきたという中世の貴族の日記や、江戸時代に流行した「鼠よけ」の護符、あるいは殺生を悔い改めた猫とともに仏道修行に励んだ鼠のお話をお楽しみください。



### 鼠よけの護符として作られた猫の絵

鼠よけの猫  
Cat to Keep Mice Away  
うたがわくによし  
歌川国芳筆  
江戸時代・19世紀



人間との結婚に破れた鼠が、猫の御坊とともに仏道修行  
ねずみぞう し  
鼠草紙 部分 Story of Mice 江戸時代・18世紀